講習会企画検討 WG 報告

Report on the Working Group of Workshop Planning

工藤 彦^{*1}
Kazuhiko KUDO

1. WG3の目的と事業内容

本WGは、日工教の会員に有益で、かつ、日工教の持続的発展に資する事業を計画することを目的とする。このため、下記のような方向性で事業内容を検討し、それに沿った講習会を企画し、それを実施することを業務とすることとしている。

【WG3の事業内容の方向性】

- (1) 上記目的の、会員対象の講習会・セミナー・ワークショップ・個別大学での出前FD、などについての、日工教の戦略策定（誰を相手になにを実施するか）
- (2) JABEE・日工教ジョイントワークショップにおけるJABEEと日工教の棲み分け方針の検討
- (3) 具体的な講習会等の企画・準備・実施
- (4) 具体的な講習会の企画に並行し、企画・実施すべき講習会の内容の検討のための勉強会実施

上記のような方向性に沿った検討の結果、下記のような戦略で講習会等の企画を考える事とした。

日工教は、理工学教育のポータルサイトになる、すなわち、理工学教職員、企業研修所員が、日工教から幅広い研修情報を得、研修を受けることができるような研修体系を構築する。そのためには幅広い内容の講習会を提供する必要があるが、日工教単独ではその資源に限りがあるので、下記の方針で主催と共催・後援を組み合わせることとした。

- (1) 日工教が強みを発揮できるコンテンツがある研修は独自に企画し実施
- (2) 汎用的な研修や、他の大学・学協会が強みを持っており、理工学教育に携わる教員にも展開したい内容は、共催、後援などで研修を実施する（全て自前で実施する必要は無い）。

2. JABEE・日工教ジョイントワークショップの実施

前章の戦略の下で本WGでは、5年前より開催してきたJABEE・日工教ジョイントワークショップを、2018、2019年度には下記のようなテーマで合計5回実施した。

●第11回 2018. 6. 30（日工教担当）

コミュニケーション実践道場（その1）
ーコミュニケーションの極意ー

芝浦工業大学 豊洲キャンパス

対象者ーコミュニケーションスキルを磨きたい教員

講師：永谷裕子（㈱アスカブランニング代表取締役、北海道大学大学院、芝浦工業大学大学院非常勤講師）

【講義】

(1) コミュニケーションのメカニズム

- ・発信者がエンコードしたコンテキストを受信者がデコードする。
- ・受信者がデコードできなければ、コミュニケーションは成立しない。
- ・受信者がデコードすることで、相手のアクションを促すことができる

(2) なぜ、話がかみ合わないのか、その原因を探る

- ・伝え手と受け手の間のギャップ
- ・“話せばわかる”の幻想
- ・認識のズレ

(3) コミュニケーション力育成のための教え方

- ・何を、何のために教えるのか？
- ・効果的な教える技術
- ・気づきと内省を促す教え方
- ・自律性を高める教え方
- ・「こんな人」への教え方

【演習】

相手の行動を促すケースをもとに、コミュニケーションのシナリオを作成し、ロールプレイで応用力を養う

●第12回 2018. 9. 15（日工教担当）

コミュニケーション実践道場（その2）

ーアクティブラーニング成功の極意ー

芝浦工業大学 豊洲キャンパス

対象者：アクティブラーニングをしても学生が動かず困っている教員

講師：大石加奈子（東北工業大学ライフデザイン学部経営コミュニケーション学科准教授、工学院大学大学院非常勤講師、生涯学習開発財団認定コーチ）

学生との有効なコミュニケーションの取り方の極意とその応用を実践的に体得する。

- (1) 講義で、対人関係スキルに関するプロセス、メカニズムを理解して、演習で実践力を体得。
- (2) アクティブラーニングを成功に導く極意を習得。
- (3) 自己学習のための参考文献を提供。

2020年9月15日受付

※1 東京電機大学研究推進社会連携センター
研究教育アドバイザー

●第13回 2018. 12. 15 (JABEE担当)

学習・教育到達目標の達成度を高めるモジュール型教育
東京電機大学 東京千住キャンパス

修了生の学修成果を達成するための「モジュール（科目群）型教育」についての解説と、そのカリキュラム設計のあり方と各科目の教育手法に関するワークショップ

- (1)「学習・教育到達目標の達成度向上に有用なモジュール型教育」 電気通信大学特任教授 三木哲也
- (2)「金沢工大における事例：環境土木工学専攻におけるモジュール統合科目」

金沢工業大学教授 宮里心一

- (3)「自然科学基礎教育における、協同学習を取り入れた授業モジュール」

長岡技術科学大学教授 市坪 誠

宇部工業高等専門学校准教授 中村成芳

- (4)グループワーク「学習・教育到達目標に対応したモジュール型教育を取り入れたカリキュラムの設計」 東京電機大学特別専任教授 工藤一彦

●第14回 2019. 9. 21 (日工教担当)

コミュニケーション実践道場（その3）

－研究室活動の効果的マネジメントを学ぶ（学生個々のタイプに合わせた指導の技術）－

芝浦工業大学 豊洲キャンパス

対象者：研究室での学生指導に悩みをもつ先生

講師：大石加奈子（東北工業大学ライフデザイン学部経営コミュニケーション学科准教授，工学院大学大学院非常勤講師，生涯学習開発財団認定コーチ）

- (1) コミュニケーションのスタイルによるタイプ分類と効果
- (2) タイプごとのコミュニケーションの特徴
- (3) 状況別，一人ひとりの学生のタイプに合わせた指導員の個別対応
- (4) 個別対応をするときに注意すること
- (5) 研究室全体に対して効果を出せる指導教員のタイプ別コミュニケーション

●第15回 2019. 12. 14 (JABEE担当)

これからの企業に求められる人材とコミュニケーション力

芝浦工業大学 豊洲キャンパス

講師 柴田英紀氏（㈱富士通ラーニングメディア）

企業の立場からコミュニケーションにおける現状や企業が学生に期待するコミュニケーション力など，社内事例を交えながらの講演

- (1)「これからの企業に求められる人材とコミュニケーション力」 柴田英紀
- (2)「学習・教育到達目標における“コミュニケーション能力”の位置づけ」

東京電機大学教育改善推進室アドバイザー 工藤一彦

- (3)「グループワークの課題と進め方」

電気通信大学特任教授 三木哲也

3. 事業企画委員会WG3の議事内容

●2018. 7. 13-14

- (1) JABEE・日工教ジョイントワークショップ (JWS)の今後の枠組，方向性について

JABEEと日工教における講習会のあり方として，本年度より年3回実施，2回は日工教担当，1回はJABEE担当とする。

- (2) JWSのテーマの想定カテゴリ

【JABEE担当ワークショップのテーマ】

PDCAサイクルによるアウトカム重視の教育の継続的改善システムにより，教育の質保証を図るための具体的な手法

【日工教担当ワークショップのテーマ】

工学系教員対象の教育法

- (3) その他の講習会テーマの候補

- ・三つのポリシーとJABEE基準に基づく質保証枠組と，学修成果の客観的評価法
- ・教育の質保証枠組に基づく学修成果の社会への提示法（ディプロマ・サプリメントの実際のありかた）

●2018. 11. 29-30

- (1) 今年度のJWSの報告
- (2) 来年度のJWSのテーマ候補検討
- (3) その他の講習会テーマの候補

- ・教育におけるITスキルの活用
- ・E-ポートフォリオを活用した学修成果の可視化
- ・アセスメントポリシーの設定法
- ・研究室での学生の指導法

●2019. 5. 17-18

- (1) 本年度のJWSの計画確定
- (2) 来年度の講習会テーマ候補検討
 - ・「技術者のように考える力を測定するテスト問題の作り方」－専門知識と汎用的能力の一体的育成教育における学修成果の測定・可視化法－
- (3) 来年度以降の講習会企画検討WGの改組案
事業企画委員会全体の改組方針に基づき，本WGを下記のように改組することとした。

- ・名称：「講習会企画検討委員会」
- ・業務：JABEE・日工教ジョイントワークショップシリーズの講習会の企画立案を継続的に実施
- ・現在の委員には，継続して新委員会の委員を委嘱
- ・委員長：現役の方に代替わりをお願いしたい。

●2019. 12. 9-10

- (1) 来年度の講習会テーマ候補追加
 - ・文科省の「教学マネジメント指針」が目指すものと，その具体化方策－JABEE基準に対応することで「教学マネジメント指針」は充足できるか？
 - ・教員評価，授業評価の目的と評価手法
 - ・大学におけるトップマネジメント主導の教育の質保証体制構築の筋道（東工大機械・電機系におけるJABEE受審の取組）